

令和8年3月13日

八王子市教育委員会 殿

八王子市立みなみ野小中学校

統括校長 仙北谷 仁策

令和7年度 八王子市立みなみ野小中学校 学校経営報告書

このことについて、以下のとおり報告します。

1 今年度の取組と自己評価 (A:十分達成 B:おおむね達成 C:一部課題あり D:努力が必要)

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 小中一貫教育の推進 → B

昨年度末からの構想で、学校の教育目標(目指す児童・生徒像)を改訂した。これは、小中一貫教育の根幹を成す考えとして、自校とともに、同じグループ校(みなみ野君田小学校)を巻き込んで取り組んだ。取組としては次の4点である。①これまでの「目指す児童・生徒像」を、「義務教育修了時(十五歳)の姿」と位置付け(表現)を変えた。②小学校段階での「目指す児童像」については、グループ校のものを参考に、「同じネタ」となるように校長が考え、新たに策定した。③本校の2つの教育目標とともに、グループ校の教育目標を、令和7年度教育課程及び学校経営方針に明示し、小中一貫教育の関係性を明らかにした。④学校運営協議会及び保護者会での承認や周知を図った。

小学校2校(本校とみなみ野君田小)と中学校1校(本校)との集合協議会を、持ち回りで年3回開催できた。当日は授業参観と協議会を実施した。(テーマを設定して、協議・報告を行った)また、これまでも実施している「具体的な連携」(関わり)については、①桑都八王子かるた大会(みなみ野中3年と、みなみ野君田小2年及び本校1年)②合唱祭合同参観(みなみ野君田小6年と本校6年)③みなみ野中生徒会による学校生活の紹介(みなみ野君田小6年及び本校6年)など、実際の交流を行っている。ただし、例年行っている④スポーツフェスティバル同日開催による合同の開会式と全校競技(みなみ野小学校及びみなみ野中学校)については、雨天のため、同日開催ができなかった。(中学校は部活動の大会関係のために、翌日の日曜日への順延が不可であった)また、小・小連携の拡充として、新たに小学校5年同士の学校行事交流をスタートさせた。(みなみ野小学芸会をみなみ野君田小が参観、みなみ野君田小音楽会をみなみ野小が参観)これらの交流をとおして(教職員も含めて)お互いの「顔の見える関係」が深まった。

【関連する保護者アンケート:3 小中学校が合同で行う取組を知っている。 小83%→78%、中76%→75%】

*その他、小・中の円滑な接続、小中あいさつ運動などの小中一貫の取組の認知については評価が高い。(小90%→87%、中88%→90%)また、青少対の地域清掃活動や学校運営協議会に双方の校長や副校長が参加し合うなど、様々な活動で、子供や大人にかぎらず、人と人との交流を行っている。

イ 確かな学力の定着 → B

学校経営方針により、日々の授業を大切にさせている。授業観察や事後指導などにより、授業改善の意識を高めた。また、学力向上プロジェクトチームという校務分掌において、放課後の補習教室を学年等で協働して取り組む

ことにより、一定の定着につなげることができた。特に、グループ校での新たな取組として、独自の分析による具体的な指導の方向性について共通理解し、それを日々の授業に生かすようにしている。令和7年度末には「都立高等学校の入試問題」を中学校担当が分析し、次年度用の資料を作成した。これらを活用し、令和8年度は日々の授業改善につなげたい。

【関連する保護者アンケート：7 授業や学校行事に意欲的に取り組むよう指導が行われている。 小90%→90%、中89%→88%】

【関連する保護者アンケート：8 授業において工夫に取り組んでいる。 小79%→87%、中89%→88%】

【関連する保護者アンケート：9 学習活動に対する評価は適切・公平である。 小87%→88%、中81%→76%】

【関連する保護者アンケート：12 学習環境の整備に取り組んでいる。 小87%→87%、中88%→87%】

ウ 特色ある教育の推進 → A

昨年度に続き、「特色ある取組」として、「小中の円滑な接続、習得目標問題の定着、小中合同のあいさつ運動」などを掲げ、年間をとおして取組を進めているが、令和7年度からの新たな取組については、「おはよう！60分」（小学校）「Good Morning！1 hour」（中学校）という、家庭と連携した啓発事業（健全育成や健康・安全教育）をスタートさせた。小・中学校養護教諭により、夏季休業明けの重点週間など、具体的取組にもつながった。また、令和7年度教育課題推進校となり、校内研究として「STEAM教育」を学び始める中で、わずかずではあるが日々の授業を「変えていく」ことについては、今後の大きな「特色」になると確信している。まだ、端緒についたばかりであるが、今後も確実に取組を進めていきたい。なお、その成果として研究リーフレットを作成し、当初の予定どおり、市内小・中・義務教育学校への成果還元を果たした。

【関連する保護者アンケート：2 学校は特色ある教育活動を行っている。 小90%→87%、中88%→90%】

エ 新しい課題に対応した教育の推進 → C

「GIGAスクール構想」における、一人1台の学習端末の活用については、丁寧に実践を進めている。そのため、日常の授業についての使用については、授業観察などから、ある程度の定着がなされたと評価している。教職員の異動を活かし、定着や推進を図ることができた。本校では、長期休業前後の児童・生徒把握や3学期の土曜学校公開時に、家庭とつなげたいいわゆる意図的なオンライン授業を実施はしていないが、一部児童及び保護者のニーズに応じて実施している。（不登校児童への配信事例あり）

一方で、今年度は、新たにみなみ野小2年及びみなみ野中1年向けに、プログラミングの外部講師授業を計画していたが、諸事情により果たせなかった。しかし、夏季休業中に、当該の講師により教員向けの研修体験ができたので、次年度以降、学校全体のカリキュラムを整備し、義務教育段階での一貫したプログラミング教育を推進していく。

【関連する保護者アンケート：8 授業において工夫に取り組んでいる。 小79%→88%、中91%→87%】

オ 人権教育の推進と道徳教育の充実 → B

職員会議において、主に校長作成のレジュメの活用により、教職員の人権感覚の向上や環境の整備に努めた。服務事故防止研修を年2回実施するとともに、自己申告面接を活用し、一人一人の意識の確認や指導・助言を行った。

前任校での「よいおとな」（よいところを褒めよう、いつも笑顔を大切に、怒らず叱ろう、止まって深呼吸、なんでも話し合おう）というキャッチフレーズを本校でも学校経営方針に掲載し、教員への意識啓発を図った。ただし、

人権教育担当による具体的な取組が十分ではなかったため、次年度への継続課題とする。

道徳教育の充実についても、学校経営方針に改訂した教育目標との道徳的な関連を示し、道徳の授業への意識改革（全教育活動を通じた道徳教育の一層の推進）を求めた。2学期の学校公開では、道徳授業地区公開講座を開催した。今年度の第二部では、保護者向けに「みなみ野小中学校の道徳教育について」と題し、昨年度段階の計画どおり、校長自らが現在の道徳教育の在り方や、道徳教育の目指すところなどについて、保護者目線として分かりやすい内容（スライド資料）で講演を行った。事後アンケートでも、肯定的な評価が多く見られた。

今年度も青少対活動の一環で、健全育成に関わる標語作りを行ったが、グループ校の都合もあり、今年度も最終的には3月末の掲示となった。全校児童がいじめやコミュニケーション、規範意識などについて考える機会となったが、次年度は秋頃の実施になるよう努めたい。みなみ野中学校区における生徒会や児童会・代表委員会とのコラボによるいじめ撲滅の取組（ピンクシャツ・デー）と併せ、引き続き次年度も行っていく。

【関連する保護者アンケート：5 学校は教育活動全体を通して、自他の大切さを認め、行動できるような教育を進めている。 小89%→88%、中88%→87%】

【関連する保護者アンケート：6 学校はいじめの未然防止や早期発見・早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。 小87%→83%、中83%→83%】

カ 特別支援教育の推進 → B

特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会を組織的に開催し、全学年それぞれにおける「配慮を要する児童」の認識を共有したり、年度終わりに「その後、現在の様子はどうか」といった変容を共有する場を設けたりした。なお、特別支援教育コーディネーターについては小学校については4名配置とした。人数の多さが却って業務の妨げにならないよう、組織的に機能させていきたい。

特別支援教育の理解のために、学校経営方針に大切な考え方をキーワードとして載せたり、臨床心理士や巡回相談員のコメントを紹介したりした。さらに、9月には民間で長年八王子市立学校に対して様々な形で助言をいただいている、CEセンターの野田弘一氏による教員研修を行い、小学校の教員だけでなく、希望する中学校の教員も参加し、基本的な考え方や配慮や支援の必要な児童・生徒との関わり方について、具体的な研修を行った。

【関連する保護者アンケート：14 特別支援教育に取り組んでいる。 小84%→82%、中84%→78%】

キ 子供たちが楽しく通える学校の実現 → C

いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、いじめアンケートを、ふれあい月間に合わせて年3回実施した。また、アンケートの取り扱いなど基本的な考え方については、職員会議や生活指導夕会を通じて、校長から指導した。2学期には道徳授業地区公開講座との連携も図りながら、「いじめ防止授業」を実施し、学校のいじめに対する姿勢を示す機会を設けた。弁護士によるいじめ防止授業も、小6年、中2年でそれぞれ実施している。

本校ではスクールカウンセラーによる全員（個別）面談を、小2年（グループ面談）にも広げ、これまでの小5年、中2年と、義務教育9年間のうち3か年（3回）で実施している。小学校におけるスクールカウンセラーとの関わるサイクルを他校の2倍とし、より相談できる環境づくりとしている。

一方で、実際に特定の学年で、友達との不適切な関わり方も複数件あるなど、いじめ及びそれに類する事例も少なからず起きている。（その都度、保護者とも連携し、問題の解決に向けた対応をしているが、解決困難な事例もある）また、健康や保護者の考えなども含まれる多様な理由で、複数の児童が、結果として学校に来られないケースが発生している。登校しぶり傾向が認められる場合は、校内委員会などで問題の共通理解と改善策の協議などを行

っている。保護者と同伴して遅れて登校する児童や、給食センターなどへの訪問・喫食を行う生徒なども複数在籍するなど、なんらかの形で支援とつながっているケースもある。昨年度に引き続き、不登校支援として「おいでよ」教室という居場所を設け、多くの生徒が利用することができたが、不登校については学校として大きな課題である。

以上の点から、関連する保護者アンケートの評価は高いものの、学校として相対的には自己評価を下げたい。

【関連する保護者アンケート：4 学校は安全管理に取り組んでいる 小92%→93%、中94%→92%】

【関連する保護者アンケート：6 学校はいじめの未然防止や早期発見。早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。 小87%→83%、中83%→83%】

【関連する保護者アンケート：10 学校は生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。 小88%→89%、中89%→87%】

ク 児童理解に基づく指導の徹底 → B

児童理解に関する様々な研修や学ぶ機会を意図的に設けた。職員会議などでは、各種資料を提示し、児童理解の様々な側面を知ることができるようにした。サービス事故防止研修を年2回実施するとともに、自己申告面接を活用し、一人一人の意識の確認や指導・助言を行った。(下線部、再掲)

ケ OJTを中心とした校内研修体制の確立 → B

事案決定における起案・決裁を第一のOJTと位置付け、日々の職務において人材育成を進めた。校長着任2年目ということもあり、主幹教諭や主任教諭の意識が高まってきた。しかし、副校長を含め、まだ十分とは言えないことから、今後も事案決定ラインの在り方について、日々のOJTとして取り組んでいきたい。

コ 地域運営学校としての保護者や地域住民による協力・参画の推進 → B

学校運営協議会を予定どおり開催することができた。次年度はメンバーの入れ替えはない予定で、基本的に継続ではあり、今後の運営も大きな課題はないと捉えているが、中長期的には「次の世代・人材」を少しずつ意識していきたい。また、校長としては、学校からの情報提供や協力依頼、共同事業の企画・運営などを適切に行ったと考えているが、副校長以下の関わり方(主体性や積極性)がやや気になる。

なお、令和9年度に控える「創立30周年式典」に向けた様々な連絡や調整も必要になってくる。したがって、校長任せや校長発信に頼ることなく、それぞれの立場で「自分事」として取り組ませる必要があると強く考える。

いわゆる保護者の会によるPTA的な活動については、役員たちが中心となり、それぞれの分担業務を適切に行ってくれた。小P連及び中P連には所属していないものの、それぞれが熱心に取り組んでくれたお陰で、教育活動に大きな支障もなく、児童・生徒の健やかな成長に結びついた。

学校からのお便りについては、必ず校長が決裁し、誤字脱字を含む内容の吟味を行い、保護者や地域から信頼される文書発出となるように努めた。

【関連する保護者アンケート：13 学校は保護者に対して、適切に情報を出している。 小89%→91%、中93%→89%】

<以上、関連する保護者アンケートも、前期→後期の集計ポイントとして併記した>

(2) 重点目標への取組と自己評価

ア いじめや不登校等の諸問題に対する組織的な対応の強化 → B

4月当初に、保護者会やお便り等で学校のスタンスについて周知徹底を図った。また、児童・生徒朝会において

も取り上げ、「目指す児童・生徒像」を具体的に示すことができた。毎週1回のいじめ防止対策委員会の活動も、生活指導主任が中心となり（分掌長を兼務）、事例を共有化させ、対応などを可視化させたことで、校内全体で事実を把握するとともに、対応についても共有することで、OJT的な学びにもつながった。

イ 本市における教育課題の解決に向けた取組の推進 → A

令和7年度教育課題推進校として「STEAM教育」の研究実践と市内への理解啓発を掲げた。1年間をとおして小学校・中学校で研修を進めるとともに、小中一貫教育グループ校であるみなみ野君田小学校とも「学習時の思考カード」において波及させることができた。本校の教員にとって、「STEAM教育」の目指すところや、日々の授業における「STEAM教育につながる思考や活動」、そして、義務教育修了後の高等学校における総合的な探究の時間に代表される、今後の学びのための準備として、「STEAM教育を知る」ことができた。また、年度末には研究リーフレットを作成し、教育委員会をはじめ、市内小・中・義務教育学校へも配布する。

部活動改革については、移行スケジュールに則り、着実に生徒や保護者の理解を得るべく、説明の機会を複数回設けている。また、人事異動の際に、必要な人材について確実に要求・申請を行うなど、「学校ができること・しなければならないこと」を適切に行った。

ウ 学校力の向上を目指した人材育成 → C

昨年度に引き続き、主に2・3年次研修での校内授業や自己申告における授業観察及び校内研究（STEAM教育）での研究授業において、互いに授業を見合い、協議を深める場を設定した。特に、中学校の授業においては、主体的な実施が多く、教科間の違いはあるものの、その姿勢は研修を深めることにつながった。しかし、理科教育推進担当や外国語教育担当、人権教育担当など、テーマを決めた公開授業を推進していきたいと考えていたが、今年度も確実な実施ができなかったことから、評価を下げるとともに、再度、次年度以降の課題とする。

エ 八王子市版GIGAスクール構想に基づく「定着期」としての取組の推進 → B

「GIGAスクール構想」における、一人1台の学習端末の活用については、丁寧に実践を進めている。そのため、日常の授業についての使用については、授業観察などから、ある程度の定着がなされたと評価している。教職員の異動を活かし、定着や推進を図ることができた。本校では、長期休業前後の児童・生徒把握や3学期の土曜学校公開時に、家庭とつなげたいいわゆる意図的なオンライン授業を実施はしていないが、一部児童及び保護者のニーズに応じて実施している。（不登校児童への配信事例あり）

一方で、今年度は、新たにみなみ野小2年及びみなみ野中1年向けに、プログラミングの外部講師授業を計画していたが、諸事情により果たせなかった。しかし、夏季休業中に、当該の講師により教員向けの研修体験ができたので、次年度以降、学校全体のカリキュラムを整備し、義務教育段階での一貫したプログラミング教育を推進していく。（下線部、再掲）

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 基幹教員の異動等による人材育成の活性化

東京都による人事異動の基準が厳格化されたこともあり、明確な在籍年数の上限が示されている。初任者については、育成段階からやや独り立ちを果たすようなタイミングであり、他の教員も「本校に慣れて」数年後に異動しなければならない、というのが現状である。また、校長が本校に着任した令和6年度以降、小学校は3名、3名、2名（累計8名）の新規採用教員、中学校も2名、2名、1名（累計5名）の新規採用教員が着任し、学校全体に対する「経

験の浅い教員」の占める割合はととも高くなっている。そのため、(昨年度も同様な記述をしているが) 一時的に学校力は低下せざるを得ないが、現在在籍している教員による引き継ぎ・伝承や、他校の手法を学ぶこと、あるいは市教委との連携など、考え得るあらゆる手法を取り入れて、計画的に人材育成を進めていく。自己申告の機会を十分に活用し、意見交換や進行管理、適切な指導・助言に努める。

(2) 八王子市教育課題研究推進校 (STEAM教育) を発展的に解消し、新たな校内研究の推進

令和7年度の研究主題を「今、求められる「STEAM教育」とは? ~新たな体系づくりを意識して~」とし、その具現化を目指し、3年計画で以下の研究を進める予定であった。

1	STEAM教育を知る	→ 先行研究・先行実践に触れる。【主な活動：視察や収集、研修受講】
		→ 先行研究・先行実践を学ぶ。【主な活動：教育内容の共有理解】
2	STEAM教育を行う	→ 先行研究・先行実践を参考に、試みる。【主な活動：授業試行】
3	STEAM教育を創る	→ カリキュラムを作成する。【主な活動：年間指導計画の試案作成】
		→ カリキュラム・マネジメントによる平準化を図る【主な活動：適正時間や持続可能な活動の開発、学習評価の在り方などの改善・評価】

令和8年度は、新たに「小中一貫教育推進校」の指定を受け、みなみ野君田小学校との共同研究を進めていく。その中で、9年間の学びの軸として「STEAM教育」を位置付け、令和7年度の実践を生かして、さらに上の2・3に取り組んでいきたい。

(3) 不登校児童への対応 (未然防止を含む)

昨年度から、個票システムを独自に工夫して、欠席児童の状況把握を可視化させた。そのことをより有効的にするためにも、校内委員会にて児童一人一人の現状や課題をこれまで以上に意識した話し合いをしていきたい。

なお、これまで同様、GIGAスクール構想に基づく欠席時のタブレット活用 (VLP:バーチャル・ラーニング・プラットフォームを含む) や別室登校支援 (「おいでよ」教室) についても、最大限、児童や保護者のニーズに応えるべく、校内委員会で確認・検討を進めていく。

(4) 「部活動改革」の円滑な推進

令和9年度からの本格実施に向けて、すでに作成したロードマップに基づき、移行への取組をしっかりと進めていく。一方で、本校発案の「七国中学校との交流活動」、外部団体による地域移行などの発展的な取組を一層推進する。

(5) 「創立30周年式典」の準備

前述のとおり、令和9年度には「創立30周年式典」を計画している。その行事は学校行事の枠を超え、児童・生徒や保護者をはじめ、本校学区の地域住民を巻き込む、一大イベントとして認識している。学校運営協議会や地域学校協働本部を中心に、保護者の会 (かたくりの会・みなみ野会) と連携・協力が必要不可欠である。令和8年度早々に準備委員会の立ち上げを構想し、関係各所とも連携・調整を図っていく。そこで、すでに1月末の学校運営協議会にて、校長からその旨の「第一声」を上げ、3月の学校運営協議会やその後の打ち合わせで、少しずつ「助走」が始まっている状況である。